



自治体コミュニケーション・ガイドの実践

八千代市「やちよ自然エネルギー市民協議会」の軌跡とAI活用プロセス

CRPジャパン 地域の気候対策グループ ワークショップ
2026年3月7日

今日のゴール：理論から実践へ



地図（ガイド）：自治体へ効果的にアプローチするための具体的なステップを学ぶ。



コンパス（事例）：「やちよ自然エネルギー市民協議会（やちエネ）」の最新の成功事例（2025年12月）から実践のヒントを得る。



ツール（AI）：難解な行政文書を読み解くための「AI活用術」をマスターする。



アクションに向けた6つのステップ



自治体コミュニケーション：ガイドから「地域のアクション」へ

ガイドが示す「対話」の基本ステップ



情報収集と現状分析

自治体の温暖化対策計画を読み、削減目標や予算、具体的施策を把握します。



「協働」を前提とした対話

主張をぶつけるのではなく、共に課題を解決するパートナーとして対話します。



次のアクションへの展開

質問で得た回答を整理し、政策提言やパブリックコメント、陳情などへ繋がります。

実践事例：千葉県八千代市でのアクション

八千代市における具体的なコミュニケーションのタイムライン



2025年10月15日

八千代市長宛てに「ゼロカーボンシティ実現に対する要望書」を提出



2025年11月12日

八千代市長との面談・意見交換を実施



2025年12月2日

市から要望書に対する公式な「回答」を受領



市長への要望書提出と直接面談

2025年10月15日、八千代市長宛てに「ゼロカーボンシティ実現に対する要望書」を提出。2025年11月、市民団体が市長と直接面談し



自治体からの具体的な「回答」

2025年11月12日に市長と意見交換。2025年12月2日に市から要望書に対する公式な「回答」を受領。屋根上太陽光の支援検討や、2030年目標の策定予定など



官民連携の場（協議会）の検討

市内の全ステークホルダーが意見交換できる「推進協議会」の創設を市が検討中です。

ステップ1&2：準備と情報収集の壁

自治体の気候変動対策を知るには、膨大な計画書を読む必要があります。



第3次環境保全計画（区域施策編）



八千代市地域脱炭素ロードマップ



2050年ゼロカーボンシティ宣言

AIを活用したリサーチの効率化

【八千代市】2050年ゼロカーボンシティ宣言
削減目標 具体的施策



- 宣言：2050年までにCO2排出実質ゼロ。
- 目標：2030年度までに40%削減（2013年度比）。
- 施策：「ひと・まち・みらい」の3つの取組みに基づくロードマップ策定。



ガイド推奨のAIプロンプトを使えば、数百ページの文書から「削減目標」と「具体策」を瞬時に抽出できます。

八千代市地域脱炭素ロードマップ：2050年のゼロカーボンシティ実現への道筋

家庭部門-79%、
業務部門-70%の大幅削減



八千代市は2050年までに
二酸化炭素排出実質ゼロを
目指す「ゼロカーボン
シティ」を宣言しました。
市民・事業者・行政が連携して
進める計画です。

2030年までの中間目標

2030年度までに
温室効果ガス40%削減

40%

平成25年度(2013年度)を
基準として、着実な排出削減
を目指します。



家庭部門
-79%



業務その他部門
-70%



運輸部門
-29%

既存技術の徹底した着及と省エネ



LED化の推進、高効率設備の導入、再生可能エネルギーの活用を加速させます。

2050年へのアクション：3つのキーワードで創る「みらい」

「ひと・まち・みらい」の連携



市民の行動変容、地域の技術普及、
革新的技術の電算を総合します。

「デコ活」によるライフスタイルの整革



脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを
創る国産運動を市全体で推進。

革新的技術の早期実装と社会転換



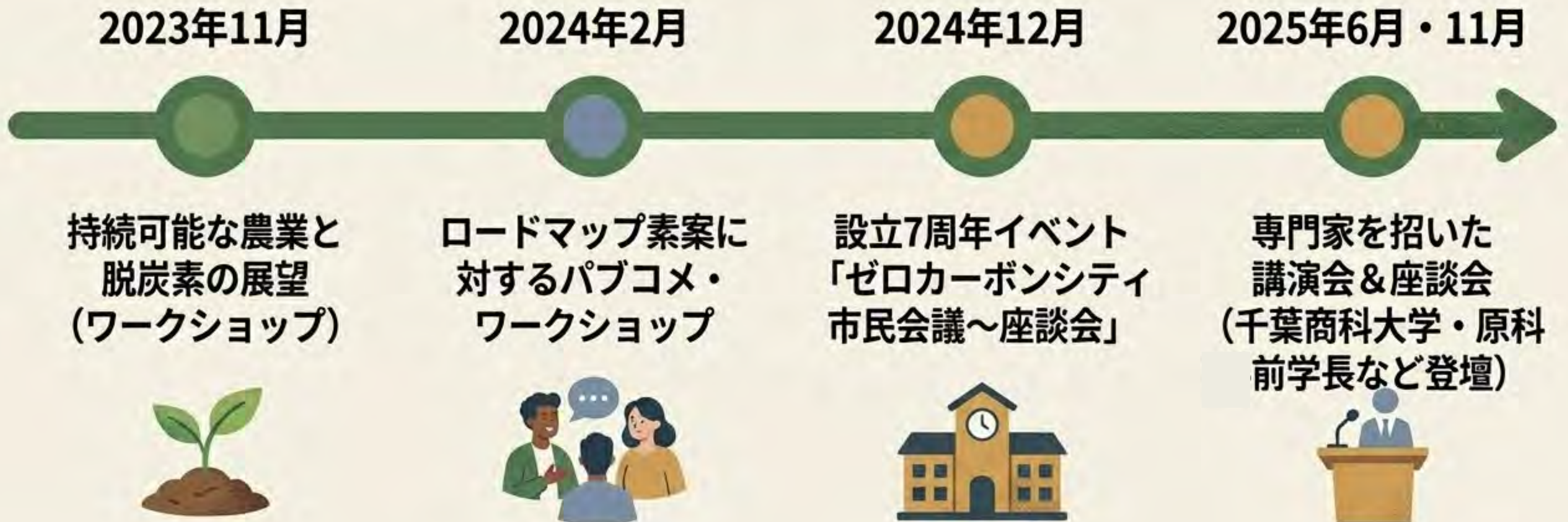
水素エネルギー、蓄電池、次世代自動車
などの新技術を事業所と協働で導入。



**2050年
ゼロカーボン
シティ実現**

ステップ3：対話の前に「仲間」をつくる

やちエネは、行政に働きかける前に「ゼロカーボンシティ市民会議」を繰り返し開催し、地域の声をまとめました。



ステップ4：的を絞った「3つの要望」

2025年10月15日、徹底したリサーチと市民との対話を経て、市長宛てに具体的な要望書を提出。



再エネ推進

2030年目標の設定、
屋根上太陽光の支援、
ソーラーシェアリング
(営農型) の本格導入。



資源循環

焼却施設の改修に合わせ
せた廃棄物発電の検討、
地域新電力による
地産地消。



協働体制

市内ステークホルダーが
意見交換できる「ゼロカ
arbonシティ推進協議
会（仮称）」の創設。

ステップ5：トップとの直接対話

2025年11月12日、八千代市の服部友則市長との面談が実現。



ガイドの鉄則：「一方的な主張ではなく、協働の関係を築く態度で接する」。
やちエネは、市の計画（第3次環境保全計画）を熟読した上で、その確実な実行を「共に進める」スタンスで要望を行いました。

回答の整理：① 太陽光とソーラーシェアリング

市民の要望 (Citizen Request)

2030年目標の策定と、ソーラーシェアリングの導入推進。

市長の回答 (Mayor's Response - Dec 2, 2025)

- ・ 目標: 2025年度の実績を踏まえ、2030年までの目標を定める予定。
- ・ 農業: 現在市内に実例・相談は少ないが、**農家より導入の意向が示された場合には、国の補助金を周知する等の支援を行う。**（農政課）
- ・ 許可実績: 過去4件の実績あり。事前相談があれば円滑に申請できるよう対応する。（農業委員会事務局）

回答の整理：② 焼却施設改修と地域新電力

市民の要望 (Citizen Request)

廃棄物発電等による資源循環と、再エネ電気の地産地消。

市長の回答 (Mayor's Response - Dec 2, 2025)

- ・ 焼却施設：令和11年度からの設備改良工事において、CO2を3%以上削減させる他、**省エネルギーかつ熱エネルギーの有効活用など、脱炭素化に寄与する仕様を検討し、実施したい。**（清掃センター）
- ・ 地産地消：現時点では包括的施策がない
- ・ 地産地消：現時点では包括的施策がないため困難だが、ロードマップに鑑み検討していく。（ゼロカーボンシティ推進室）

回答の整理：③ 官民連携の協議会創設

市民の要望 (Citizen Request)

情報や意見の交換ができる「ゼロカーボンシティ推進協議会（仮称）」の創設。

市長の回答 (Mayor's Response - Dec 2, 2025)

- ・協働体制：官民連携での推進協議会の創設につきましては、**どのような体制が適切か検討しているところでございます。**
(ゼロカーボンシティ推進室)

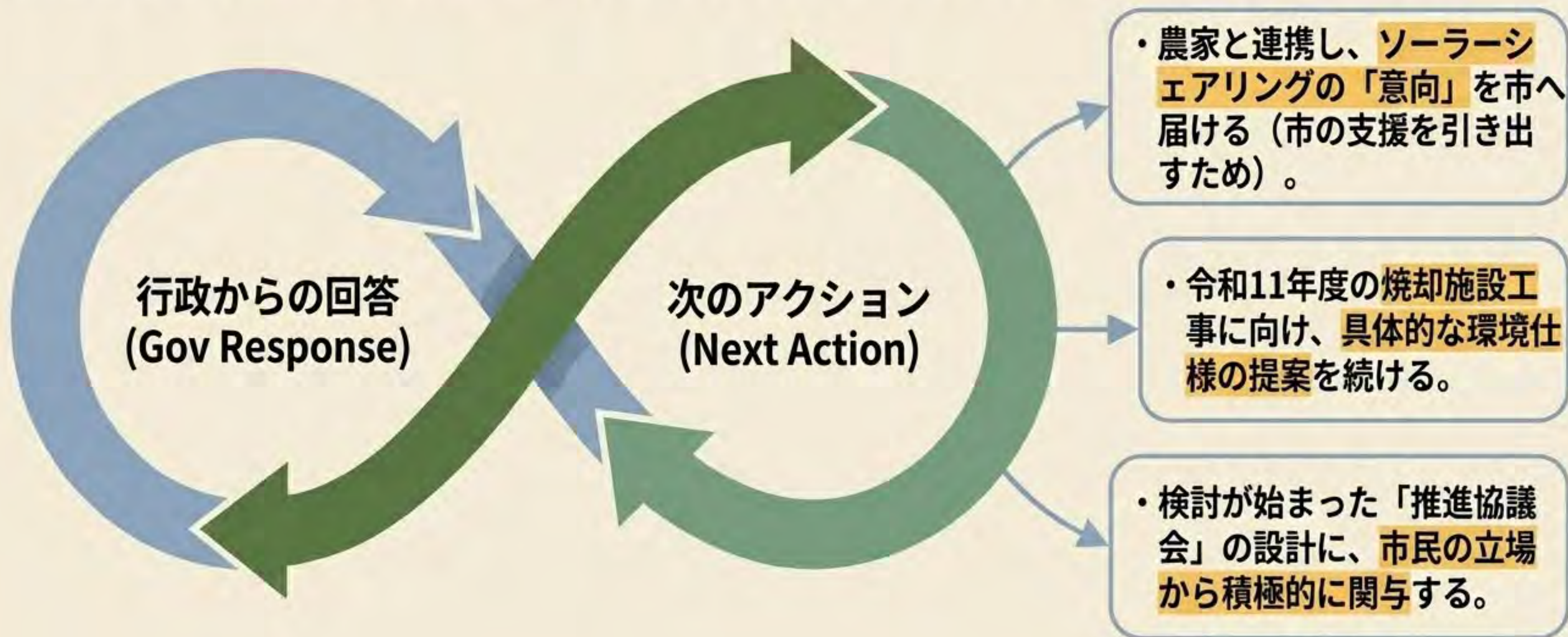
NEXT STEP

Takeaway Box

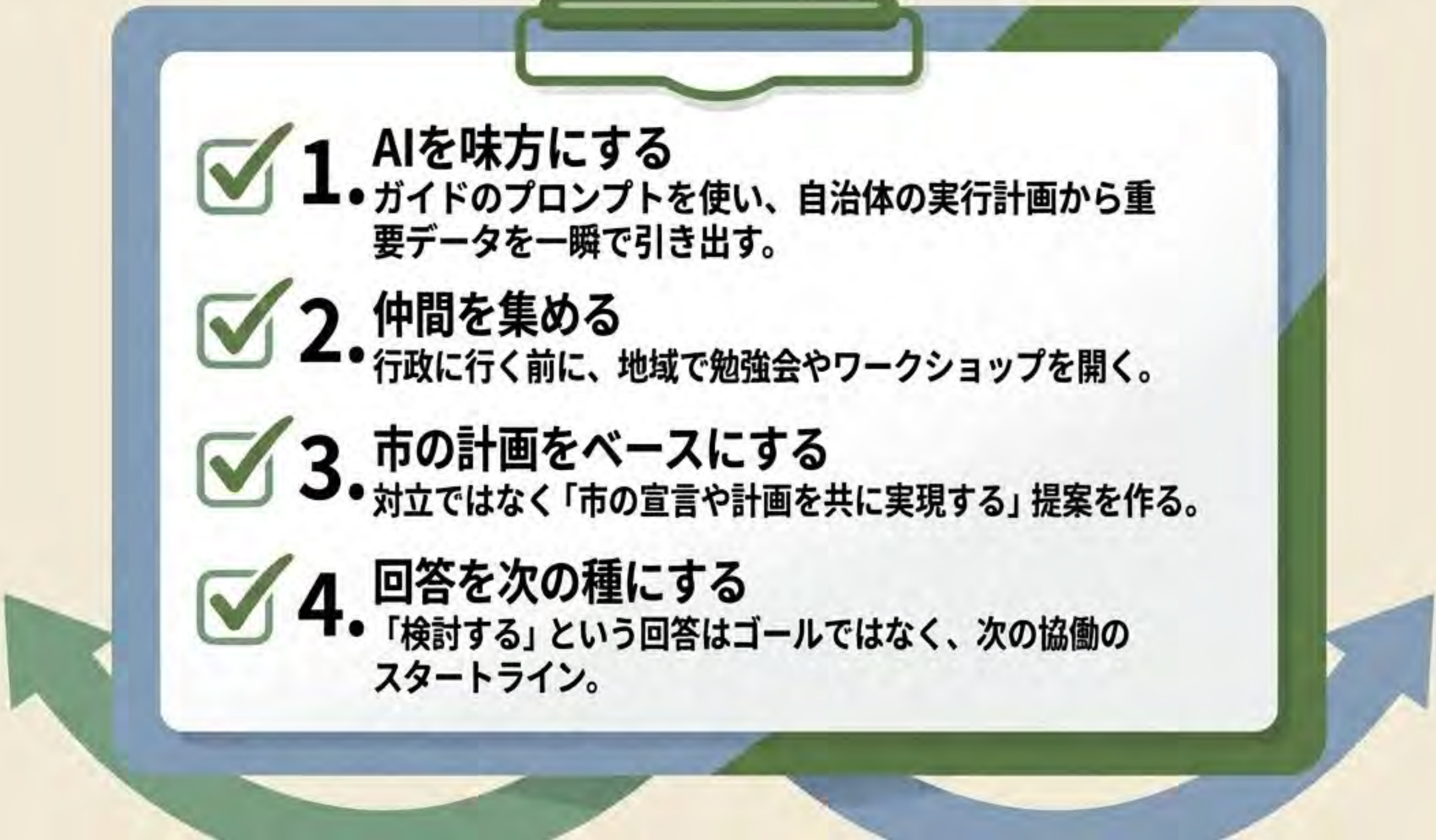
自治体が公式に「官民の協働の場」の創設に向けて動き出した、非常に大きな成果です。

次のステップ：回答をどう活かすか？

回答をもらって終わりではありません。やちエネの次なるアクションが見えてきました。



あなたのまちで明日からできること

- 
- ☒ **1. AIを味方にする**
ガイドのプロンプトを使い、自治体の実行計画から重要データを一瞬で引き出す。
 - ☒ **2. 仲間を集める**
行政に行く前に、地域で勉強会やワークショップを開く。
 - ☒ **3. 市の計画をベースにする**
対立ではなく「市の宣言や計画を共に実現する」提案を作る。
 - ☒ **4. 回答を次の種にする**
「検討する」という回答はゴールではなく、次の協働のスタートライン。



さあ、ガイドブックを 開きましょう

あなたの自治体で、最初の一步をどこに踏み出しますか？

ワークショップ開始：グループに分かれ、ご自身の住む自治体の
現状と、明日できるアクションについて話し合しましょう。